

第3回境町学校のあり方検討委員会資料

境町学校のあり方検討委員会

目 次

1 課題の整理（小規模校に対するヒアリング）について・・・・・・・・・・ 1

- (1) 目的
- (2) 対象校及び学校長
- (3) ヒアリング内容

2 学校の規模・配置等に関する アンケート調査結果報告について・・・・・・・・・・ 5

- (1) 児童生徒（小学校6年生及び中学校3年生）アンケート結果について
- (2) 今後の学校のあり方について（自由記述まとめ）
- (3) アンケート調査結果からみた課題等の整理

3 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- (1) 現状のスクールバス運行状況について
- (2) 第4回検討委員会について

1. 課題の整理（小規模校に対するヒアリング）について

（1）目的

境町小中学校の望ましい学級数や 1 学級あたりの人数規模等について検討を進める為、小規模校（森戸小・静小・境二中）を対象に学校長へヒアリングを実施し、学校規模による学校運営上の利点や課題等を整理するものである。

（2）対象校及び学校長

【小学校】

- ・境町立森戸小学校 校長 根本 郁夫 様
- ・境町立静小学校 校長 染谷 広美 様

【中学校】

- ・境町立境第二中学校 校長 大谷 良明 様

（3）ヒアリング内容

- ・学校概要について
- ・現状としての小規模校におけるメリット及びデメリットについて
- ・今後、児童生徒数が減少した場合に、予想されるメリット及びデメリットについて

○ 自校の学校規模における学校運営上、現在当てはまると考える事項、または、今後、更に児童生徒数が減少する場合、当てはまってくる事項は何ですか？

(当てはまる事項に☑, 今後当てはまってくる事項に☒)

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、補充や個別指導など、きめ細かな指導が行いやすい。 ☑意見や感想を発表できる機会が増える。 ☑学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ☑1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ☒運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ☑中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ☑児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ☐部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ☑異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ☑児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑クラス替えが困難なことなどから、児童生徒の人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ☒集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ☑切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ☑組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ☑全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ☑学校が一体となって活動しやすい。 ☑施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ☑学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ☑一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ☑教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ☑子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ☑保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

○ 自校の学校規模における学校運営上、現在当てはまると考える事項、または、今後、更に児童生徒数が減少する場合、当てはまってくる事項は何ですか？

(当てはまる事項に☑、今後当てはまってくる事項に☒)

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒の一人ひとりに目にとどきやすく、補充や個別指導など、きめ細かな指導が行いやすい。 ☑意見や感想を発表できる機会が増える。 ☑学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☐集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ☑1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ☐運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ☐中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ☐児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ☐部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ☑異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ☑児童・生徒の一人ひとりに目にとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑クラス替えが困難なことなどから、児童生徒の人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ☒集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ☐切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ☐組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ☑全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ☑学校が一体となって活動しやすい。 ☑施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☒教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ☐学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ☑一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ☐教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ☒子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ☑保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☒PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

○ 自校の学校規模における学校運営上、現在当てはまると考える事項、または、今後、更に児童生徒数が減少する場合、当てはまってくる事項は何ですか？

(当てはまる事項に☑, 今後当てはまってくる事項に☒)

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、補充や個別指導など、きめ細かな指導が行いやすい。 ☑意見や感想を発表できる機会が増える。 ☐学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ☑1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ☑運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ☑中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ☑児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ☑部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ☑児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ☑異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ☑児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑クラス替えが困難なことなどから、児童生徒の人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ☑集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ☑切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ☑組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ☐全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ☐学校が一体となって活動しやすい。 ☑施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ☑学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ☑一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ☐教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ☑子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ☐保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

2. 学校の規模・配置等に関するアンケート調査結果報告について

- (1) 児童生徒（小学校6年生及び中学校3年生）アンケート結果について
- (2) 今後の学校のあり方について（自由記述まとめ）
- (3) アンケート調査結果からみた課題等の整理

3. その他

- (1) 現状のスクールバス運行状況について
- (2) 第4回検討委員会の日程について

（案）令和3年12月14日（火） 午後3時00分～